

# 蔵王鉦山山神社祭り、盛大に開催

## 資料館建設を一年間延期、 来年の例祭に地鎮祭を執行 仙人沢の「七曲がり」も併せて整備

5月15日は、蔵王鉦山山神社の例祭日です。  
今年も「蔵王鉦山の歴史を語り継ぐ会」(以下、「語り継ぐ会」という)主催による「山神社祭り」が蔵王鉦山関係者約50人が集い、盛大に執り行われました。  
今年も催事に先立ち、5月13日には、役員による神殿の雪囲い外しと境内清掃が行われました。  
祭日当日は、午前11時、掃き清められた山神社社殿前に会員など30人が参列し、厳かに神事が執り行われました。晴天に恵まれ、昔の祭日と同じようにミズナラの新緑が燃えていました。  
神事は、中川善博理事の司会進行で進められ、高橋正之理事の開会の挨拶、八幡神社・芳賀宮司による祝詞奏上、玉串奉典と続きました。  
玉串奉典は、氏子代表・山川庄助氏、「語り継ぐ会」副会長・土屋健一氏、東金属鉦山(株)本社代表・間山 昭氏、来賓代表・県議会議員佐藤 昇氏、市議会議員・枝松直樹氏、中川地区会会長・篠原政志氏、友好団体代表(永松の会長)・熊谷勝保氏、元山探鉦所代表・川口尚也氏、製錬所代表・土田貞男氏、索道関係者代表・菊地政男氏、蔵王鉦山労働組合代表・斎藤善吉氏、蔵王鉦山主婦の会代表・山口千恵子氏、遺族代表・結城昌夫氏、中川第一小学校卒業生代表・長谷部佳明氏の方々が行いました。最期に丹野啓理事の献杯、閉会の挨拶があり、神事を終了しました。



**蔵王通信**  
**第8号**  
発行  
NPO法人 蔵王鉦山の歴史を語り継ぐ会  
山形県上山市蔵王字蔵王山 2843-1  
発行責任者 川口 兼次  
TEL.023-679-2211 FAX.679-2606  
編集責任者 高橋 正之  
山形県上山市金谷 530 TEL.023-679-2435  
印刷所  
有限会社 東洋企画印刷  
山形県上山市四谷 2-1-46  
TEL.023-673-1648 FAX.673-1646



同日正午より、場所を蔵王猿倉レストハウスに移し、関係者約50人が出席して「祝賀会」が催されました。本年は、元山探鉦所の最古参・大場善治氏のご子息・大場重信氏(市内スカイタワー)が初めて出席されました。(写真下位置)



祝賀会は、佐藤県議、枝松市議、上山市観光物産協会会長・五十嵐伸一郎氏の来賓挨拶、来賓紹介のあと、「語り継ぐ会」・間山相談役の音頭で乾杯し祝宴に入り



宴の冒頭、川口専務理事より、「語り継ぐ会」のこの1年の取り組みが紹介されました。

「語り継ぐ会」理事長・川口兼次氏は、昨年12月より股関節を痛め歩行困難となり、山神社祭り神事には参列できませんでした。祝賀会には車いすに座って出席、主催者挨拶を行いました。

また。大曾根餅つき保存会が餅つきを披露し、宴に花を添えていただきました。

湯町角、新湯角、駅前前の3カ所に「閉山反対闘争」の陣を構え、署名活動やカンパ活動などが行われた。多くの上山市民から同情を呼んだが、「坑内火災」はごうにもならなかった。負けた。誰もいない組合事務所で涙した。  
索道とか事務所、アパートといった大きな建物は専門業者へ。いわゆるハモニカ長屋等は残留従業員で、という撤収方針が出された。何年かぶりで土方服を着用し、残留組に仲間入りした。(写真)

① 平成29年12月、旧製錬大会に、当会理事・原田正男氏が出場し、強豪を相手に見事6位に入賞したと。② 第21回岸英三杯ZAO猿倉ベテランスキー大会に、当会理事・原田正男氏が出場し、強豪を相手に見事6位に入賞したと。

③ 小松正和設計士を中心に、旧中川第二小学校跡地を見分し、建設地の杭打ちを行い、駐車場用地や池等の整備を行って、建設に向けてスタートを切ったと。

④ 平成29年7月6日〜7日の1泊2日の日程で、永松の会が企画した、鉦山の歴史資料館を訪ねる「みちのく北秋田の旅」に川口理事長が参加し、尾去沢鉦山、小坂鉦山、阿仁鉦山等の歴史資料館を視察。見聞を広めたこと。

油坂を登り、嘉助さんの壺を横目にトコ飯場へ。そして大崩を足早に通り返し、抜け撤収現場へ。入り口にあった単身寮から作業が行われた。天井の柱にワイヤーやロープをかけて、5人で引っぱると簡単に倒れていく。しかし、片付けるのが大変だった。コンクリートの基礎だけはそのまま残されていく。時折、放映される三陸津

⑤ 平成29年9月13日〜14日、永松の会主催による山形県内鉦山関係者の集いが開催され、川口理事長が出席しました。この集いには、大泉鉦山(鶴岡)、谷口鉦山(金山町)、幸生鉦山(寒河江市)・満沢鉦山(最上町)・木友鉦山(舟形町)・永松鉦山(大蔵村)・蔵王鉦山(上山市)の7団体約50人が出席し、閉山時の思い出やその後の取り組みを話し合ったこと。

⑥ 平成30年4月15日、蔵王猿倉レストハウスに川口兼次理事長以下11人の理事が出席し、「NPO法人蔵王鉦山の歴史を語り継ぐ会」役員会を開催しました。

⑦ 平成30年4月15日、蔵王猿倉レストハウスに川口兼次理事長以下11人の理事が出席し、「NPO法人蔵王鉦山の歴史を語り継ぐ会」役員会を開催しました。

### 蔵王鉦山は誰のもの

#### その六 撤収・それぞれの道

波の映像を見ていると当時を思い出す。  
夢も希望もない撤収作業は、ひと夏続いた。撤収が終わったら俺たちはどうなるのだろうか、32人の残留組にそんな不安がつきまわっていた。  
職安(現ハローワーク)へ行ってみた。つい最近まで団結の鉢巻きをして闘ってきた仲間たちであふれていた。住むところ

以上のほか、宴の最後に川口理事長より次のとおり決意表明が行われました。  
① 蔵王鉦山歴史資料館の建設は、体調不良により次年度に持ち越ししてしまったが、来年度の山神社祭りには、「地鎮祭」を執り行いたい。

現状は、資金不足を否めないで、この1年、会員の拡大に努める一方、指定管理者の業務をしっかりと果たし、建設資金に充当したいと考えている。会員の一人のご支援をいただきたい。  
② 資料館建設事業と並行補者を擁立したい。

現状は、資金不足を否めないで、この1年、会員の拡大に努める一方、指定管理者の業務をしっかりと果たし、建設資金に充当したいと考えている。会員の一人のご支援をいただきたい。  
③ 政治と行政に「語り継ぐ会」の活動を反映させるため、市議会議員選挙に候補者を擁立したい。

は見つかったのだからか、そして職は。閉山の厳しさは、日が経つにつれ増していくように思えた。  
(かわぐち)



平成30年4月15日、蔵王猿倉レストハウスに川口兼次理事長以下11人の理事が出席し、「NPO法人蔵王鉦山の歴史を語り継ぐ会」役員会を開催しました。  
会では、川口専務理事より、この1年間の経過報告が行われたのに続き、5月15日に執行する「山神社祭り」の持ち方、歴史資料館の建設等について協議を行いました。  
同館の建設については、川口理事長から「股関節の不調から行動が制限されており、了承されました。」

「蔵王鉦山の歴史を語り継ぐ会」役員会を開催  
資料館建設の1年間延期を承認  
平成30年4月15日、蔵王猿倉レストハウスに川口兼次理事長以下11人の理事が出席し、「NPO法人蔵王鉦山の歴史を語り継ぐ会」役員会を開催しました。

# あの人の訪問記

## 中川第二小学校で教鞭 葛谷 栄三先生

今回は、中川第二小学校で3年間教鞭を取られた葛谷栄三先生を訪ねました。筆者(高橋)は、先生が小学校に赴任したとき、初めて担任した学級(小4)の生徒でした。奥様(つね子先生)と幼い長男を連れて赴任され、学校前の池の傍の社宅にお住まいでした。上山南中学校長、上市市教育長を歴任。絵画、彫刻制作で活躍され、平成26年には、山形県最高の文化賞である「齋藤茂吉文化賞」を受賞されています。現在90歳、鶴野町の自宅で二人暮らしながらも、近くのアトリエを拠点に意欲的に創作活動を続けています。

### 中川第二小学校と共に生きる(その1)

#### (1)ようやく教員になって

私は昭和2年8月15日 属としての辞令を受けました。生まれも育ちも、物心。この軍属養成所は、非が付いた時は、日本は中国 常に厳しい教育で、連日連と戦争をしていました。夜「しごき」とビンタの連続でした。朝4時起床し、小学校を卒業すると何 冷水浴をして裸での寒風摩 擦、マラソン4キロの連続。 ようかと母校を訪ねた。八



うじて生きて来た。昭和28年4月卒業し、私の赴任する学校はどこかと思つたら、庄内地方大和村の和合中学校であつた。その学校で国語、美術教員となり、庄内の子供たちを村山弁で堂々と指導した。生徒からは大いに受けて、方言劇のシナリオを村山弁で書き、学芸会で学生劇を演じて喜ばれた。ところが、昭和28年に結婚し、2年後に長男・一行(かずゆき)が生まれた。別居夫婦ではまずい、と上市市教育委員会が上市市立東小学校教諭として受け取ってくれた。妻・つね子と長男の3人で古屋敷分校を宿舍にして、山の子を友として指導した。それまで分校の児童は成績が悪いと言われて、自信を無くしていたので、私は、学力充実と運動力向上、それに表現力を持つ子供を目標に努力した。グラウンドの代わりに県道でマラソンをして、大声で本を読み、毎日日記を付けて文字を学び、半年かけて本校の児童を追い越した。児童たちは十分に自信を付けた。学校運動会では、「3等以上でない」と古屋敷の子でない。と励まし、

大東亜戦争は、8月ごろ負けて終わると所長の小島中将より教えられていたのだから、5年が過ぎたとき、山形県に山形大学が設立したので受験し、中学国文学科に合格し学生生活を送った。お金がないので、農家の手伝いをして、かろ

を發揮してくれ」と言われ、妻と長男(1歳)の3人でバスに乗り蔵王山の麓の創立2年目の学校に着任した。宿舍は、鉱山会社の社宅の立派なところを無料で貸す。そこで生活も安定し、妻と二人で同一勤務は、少々他人に毒かもしいれないが、我慢してもらい私なりに努力した。教育の内容として、大きな学校と同じようにすべて実施する方針なので、第一に体力の充実、それには蔵王山に登ること。第二に学力の充実、声を出して読む。私の学級は、一人残らず元気に勉強し、遊び回った。夏休みが過ぎると体力も付き、学力も身につく、他校に負けない児童となった。校長の小関先生の友人であ



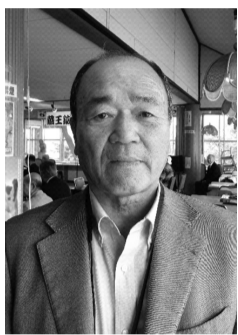
昭和33年度中川第二小学校卒業写真  
前列左から、小関芳之先生、中野先生、葛谷先生、小関芳栄校長、佐藤教頭、佐藤伸行先生、秋生田千代子先生、2列目左から、鈴木喜久夫、桑原久仁美、川上美代子、井上トミ、森田さん、鈴木用務員さん、一柳先生、海老名六郎先生  
3列目左から、小関誠、多田博美、秋山峰広、高橋トモ子、多田弘子、青山貴美子、佐藤弘子  
4列目左から、佐藤竹志、野地洋、多田光蔵、高橋正之、鹿野孝雄、齋藤大作、渋谷浩治、齋藤昭夫

## 役員紹介

### 理事 土田 貞男さん

中川第二小学校から中川中学校へ。野球で活躍。日大山形高校、国士館大学(二年中退)へとすすみ、高校、大学ではスキー部に所属、公式戦で入賞するなど鉱山で培ったスキー技術を発揮した。

山形マツダ自動車に就職。結婚後は、(株)上山印刷に勤務、その後独立。現在は上山市内で印刷会社・(株)東洋印刷を運営。本紙の発行のみならず、会の広報全般をバックアップしていただいている。



鉱山での習慣が抜けず、山菜取りが趣味。週末となくと春はワラビ・ぜんまいはもとより、竹の子を求めては山々を駆けめぐっている。

## ペンで結ぶ、近況だより

### ◇野地洋から

#### 秋山峰広君へ

お便りありがとうございます。お返しいたいと思っております。お互い、体に気を付けて頑張りましょうね！



小生の近況



中川第二小学校時代(前列左から3人目)

### ◇野地洋から

#### 桑原久仁美君へ

昭和38年頃秋田に引っ越ししましたが、その後私は19歳の時、東京中央区の運送会社に入社し、タンクローリーの運転手、その後ガソリンスタンドに転身、20年程東京暮らしをしたのち、昭和61年3月、福島に移住し現在に至っています。

父・直治は、80歳の時脳梗塞になり入院。施設等を5カ所程変わりましたが、平成17年5月89歳で他界。母・ヨシは平成27年12月97歳で他界。私の兄弟は、次男・貞は、川崎市で大工をやっております。3男・勤は、厚木市で歯車製作会社勤務を経て、昨年65歳で退職しました。妹・美智子は白血病のため、平成28年4月、59歳で新宿の大病院で他界。自宅は板橋区です。

私は、離婚と死別を一度ずつ経験し、1年半前から6歳の

下の女性と暮らしています。峰広君、是非お会いしたいと思っております。お互い、体に気を付けて頑張りましょうね！

## 蔵王通信

### ◇車椅子

なるべく気分つかれないように、サンダラスをかけ、山大医学部の長い廊下を動かして行く。2、3人の知人から「大丈夫か」と声をかけられた。雪には使えないので、猿倉では杖に切り換えた。車椅子の乗り心地は最高であることに気付いた。

### ◇山神社

老朽化が進んできた。近年中に建て直すが必要。今後、建て直すときは、歴史資料館の所に移してはどうか。いろいろ意見が出された役員会。確かに現在の山神社は製錬場が一望できるパラダイス所になっている。しかし、参拝者が老朽化し登れないのでは駄目だ。この議論は当分続けられそう。

### ◇サムライ長屋

住人の2世S君が我が家を訪ねてきた。S君の親父さんは沖繩戦線の生き残りだと言われていた。沖繩でなぜ生き延びたことができたのか、S君から聞いた真相が分かった。親父さんは部隊の斥候兵だった。本隊より先行し、情報を収集するのが任務。本隊から離れていたため、本隊は全滅したのにもかかわらず、幸運にも生き延びたのだ。生真面目で、いつまでも部隊気質の抜けない人だった。雪の降る夜、裸で取っ組み合いの喧嘩をしていたのが忘れられない。(高橋記)

## 編集後記

今年も山神様の祭りの日は、晴天を迎えミズナラの新緑が燃えるようであった。境内から製錬場の跡地を眺め、時、昔胸をときめかして鳴らした太鼓の響きがかすかに蘇った。幼い時胸の奥に刻み込んだ「思い出は、なかなか消えない。結ぶ」は同級のN君。家族の不辛に見舞われながらも懸命に生き抜いていく。ペンを執筆の原動力として一緒にいたK君に「つないでくれた。」役員紹介

の土田氏、中学では3塁手、敏捷な守備、ゴルフのスイングが当時のバツンクそのまゝ本紙の次号は、8月に発行予定。6月開催のNPO法人の総会を主題にして、また「会員の拡大」なども呼びかける。記憶は、写真などの映像から蘇ることがある。秘蔵している「思い出の写真」を募集することも構想に入っている。どう、ご期待！(高橋記)